

会 告 目 次

研究発表会開催通知	2
第40回 ヒューマンインタフェース研究会	2
第87回 自然言語処理研究会	3
第80回 人工知能研究会	} 合同研究会
第65回 記号処理研究会	
第20回 コンピュータと教育研究会	4
第37回 情報システム研究会	5
第53回 マルチメディア通信と分散処理研究会	5
第76回 コンピュータビジョン研究会	6
第84回 計算機アーキテクチャ研究会	7
第25回 アルゴリズム研究会	8
第2回 オーディオビジュアル複合情報処理研究グループ研究発表会	8
「テクニカルコミュニケーション」研究グループの新設	9
第1回 テクニカルコミュニケーション研究グループ研究会	9
「音声言語情報処理と音声入出力装置」研究グループの新設	9
第42回 全国大会学術奨励賞の表彰	10
論文賞候補の論文推薦のお願い	12
本会協賛等の行事案内	12
第44回 全国大会予約案内	13
「1992 情報学シンポジウム」開催について	15
「知識ベースシステムにおける高速推論技術」チュートリアル開催について	18
平成3年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の納入	18
海外からの送金方法	20
「情報システムの計画と設計」刊行	21
電子情報通信学会創立75周年記念懸賞論文募集	22
「第4回 ソフトウェアプロセスワークショップ」論文および参加者募集	23
支部だより	24
会議案内	24
教官募集	26
雑 報	26

研究発表会開催通知

(平成3年12月15日～平成4年1月31日)

研究会	日	時	会場	備考
グラフィクスとCAD	12月20日(金)	10:00～16:00	機械振興会館	前号参照
ヒューマンインタフェース	1月16日(木)	11:00～16:50	同上	下記参照
自然言語処理	1月16日(木) 1月17日(金)	13:00～17:00 10:00～15:40	中京大	同上
人 工 知 能 記 号 処 理 合 同	1月16日(木) 1月17日(金)	13:00～17:15 9:20～12:00	芝蘭会館	同上
コンピュータと教育	1月17日(金)	13:30～17:00	機械振興会館	同上
情報システム	1月21日(火)	13:30～17:00	同上	同上
マルチメディア通信と分散処理	1月23日(木)	10:00～17:00	同上	同上
コンピュータビジョン	1月23日(木) 1月24日(金)	9:00～18:30 9:00～12:00	阪大	同上
計算機アーキテクチャ	1月23日(木) 1月24日(金)	13:30～18:00 9:00～12:00	紫明荘	同上
アルゴリズム	1月24日(金)	10:30～17:00	日電(川崎)	同上

◆ 第40回 ヒューマンインタフェース研究会

(発表件数: 8件)

(主査: 安西祐一郎, 幹事: 井関 治, 小川克彦, 廣瀬通孝)

日 時 平成4年1月16日(木) 11:00～16:50

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室

(東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, または JR: 浜松町下車, バス: 渋谷一東京タワー線東京タワー, 渋谷一東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車, Tel. 03 (3434) 8211)

議 題

—11:00～12:10—

(1) 日本語文からの自然画合成 一位置関係情報からの画像部品の配置—

岡本修作, 前田利之, 中川雅通, 前原文雄 (松下電器)

〔概要〕 日本語文から抽出された対象物およびそれらの位置関係情報をもとにした自然画の合成。

(2) 知的ハイパーメディアのためのスクリプティング環境とその応用例 清水広之, 安井照昌 (三菱電機)

〔概要〕 論理型言語ベースのスクリプティング環境とその上の知的ハイパーメディア機能の実現。

—13:10～16:50—

(3) MONSTER (Multimedia OriEnted Super TERminal) のヒューマンインタフェース

和西 誠, 津田光弘 (富士通)

〔概要〕 B-ISDN 環境上のマルチメディアワークステーションのための新しいインタフェースの提案。

(4) 画面デザインのエルゴノミックス的考察

山岡俊樹 (東芝)

〔概要〕 画面デザインをエルゴノミックスの観点から概観したデザインを行う上での原理原則。

(5) 使い方のデザイン

小川克彦, 米村俊一 (NTT)

〔概要〕 インタフェース設計において, 設計ツールの使い方を分析し, 設計の質を向上させる使い方を推奨。

(6) 仕様記述の変換に基づく対話型ユーザインタフェースの設計 三宅一巧, 渡辺喜道, 今宮淳美 (山梨大)

〔概要〕 ユーザインタフェースの抽象的記述を対話的に変換し, 実行可能なコードを生成するシステム。

(7) UIMS 設計環境の一実現

船戸康徳, 今宮淳美 (山梨大)

〔概要〕 現在開発中の UIMS における状態遷移図エディタと対話要素エディタ等の設計環境。

(8) 片手・非視的操作型電指鍵盤における操作の原理とシンボル配列の論理

金矢義雄

〔概要〕 盤面中央と中指シフト、挟み持ち、数理・音声の原理に基づくソフト等で得た鍵盤と姿勢動作の自由。

◆ 第 87 回 自然言語処理研究会

(発表件数：12 件)

(主査：野村浩郷，幹事：田中裕一，徳永健伸，内藤昭三)

日 時 平成 4 年 1 月 16 日 (木) 13:00~17:00

17 日 (金) 10:00~15:40

会 場 中京大学 情報科学部 人工知能高等研究所 会議室

〔豊田市床立 101, 名古屋駅より東山線：伏見下車，豊田新線：浄水下車 (約 35 分)，学バス (約 5 分)。

Tel. 0565 (45) 0971〕

議 題

1 月 16 日 (木)

(1) 自律オブジェクトによる右隅統語解析 笠 見一 (JDNL), 横田将生 (福岡工大)

〔概要〕 自律オブジェクトを用いた右隅統語解析法を開発した。この方法は、非常に高い探索効率を有している。

(2) 格充足原理に基づく係り受け解析手法

立岡 章 (CICC), 鈴木勝男, 中村澄江 (FDL), 林 達也 (富士通研)

〔概要〕 結合度，卑近則，格充足原理を用いて原文の係り受け構造を定量的に評価する手法。

(3) 心像意味論に基づく自然言語理解

横田将生 (福岡工大)

〔概要〕 自然言語概念を心像に対応づけて論じる自然言語意味論およびそれに基づく自然言語理解処理。

(4) 変換知識の協調的処理による翻訳手法

古瀬 蔵, 飯田 仁 (ATR)

〔概要〕 解析と変換の知識を協調的に処理する翻訳手法のシステム構成と実験結果。

(5) 大語彙かな漢字変換方式の変換率評価

山田洋志, 大山 裕 (日電)

〔概要〕 大語彙単語辞書と単語間関係 (共起) 辞書を用いる標記方式を開発し従来以上の高変換率を実現した。

1 月 17 日 (金)

—10:00~12:40—

(6) 派生文法による日本語構文解析

西野博二, 鷲北 賢, 石井直子 (東工大)

〔概要〕 伝統文法の「用言の活用」を否定した派生文法に基づく構文解析システムの開発とその有効性。

(7) 日本語の動作表現中の空間的概念の解析

山本唯史 (京大)

〔概要〕 日本語の情景描写文中の動作表現を対象世界の空間的制約の時系列として捉える意味解析法の提案。

(8) 自然言語に内在する論理構造

安藤司文 (長崎大)

〔概要〕 すでに提案した意味言語は多層格一論理構造をもっているが、本論文では論理構造について説明する。

—13:00~15:40—

(9) 対話参加者の心的記述とその動的変化に関する枠組

村田剛志 (東大)

〔概要〕 協調的な対話を実現するために相手の心的状態やその対話中の動的変化を明確に記述する枠組の提案。

(10) 対話のインタラクション構造を用いた話題の認識

竹下 敦 (NTT)

〔概要〕 ドメイン知識のかわりに、対話のインタラクション構造を用いて話題継続を同定する手法の提案。

(11) 日本語校正支援システム FleCS

奥村 薫, 建石由佳, 脇田早紀子, 金子 宏 (日本 IBM)

〔概要〕 パーソナルコンピュータ上に実現した校正支援システム「FleCS」の特徴と使用結果の紹介。

(12) 小規模国際会議 “NLPRS '91” 報告

野村浩郷 (九工大), 田中裕一 (ICOT), 徳永健伸 (東工大)

〔概要〕 11 月 25, 26 日にシンガポールで開催された NLPRS '91 についての報告。

◆ 第 80 回 人工知能研究会 } 合同研究会
◆ 第 65 回 記号処理研究会 }

(発表件数: 10 件)

AI (主査: 石塚 満, 幹事: 原口 誠, 吉田裕之, 松原 仁)

SYM (主査: 竹内郁雄, 幹事: 相場 亮, 小谷善行, 多田好克)

日 時 平成 4 年 1 月 16 日 (木) 13:00~17:15

17 日 (金) 9:20~12:00

会 場 国際交流会館 芝蘭会館

(京都市左京区吉田牛の宮町 11-1, 京都駅より市バス(A2 乗り場 206 系統): 東一条下車, 東一条交差点よりすぐ (京大医学部横). Tel. 075 (771) 0958)

議 題

1 月 16 日 (木)

(1) 定量的制約とリレーションによる事象の時間的性質の決定 佐々木寛, 山田誠二, 豊田順一 (阪大)

[概要] 時間幅, 時点, 方向等を用いて, 事象の定量的性質を数理計画法により決定する方法を提案する。

(2) 等価変換による回路変換ルールの自動合成 馬淵浩司, 赤間 清, 青木由直 (北大)

[概要] いくつかの等価変換ルールを示し, それを用いることによって, 回路変換ルールの自動合成を行う。

(3) 伸縮型個体群および適応選択方式を用いた遺伝子アルゴリズム GENEPAS

筒井茂義 (阪南大), 藤本好司 (シャープ)

[概要] 各世代ごとに遺伝子のプールサイズを伸縮可能とした新遺伝子アルゴリズムとその実験結果を報告する。

(4) 確率論理の意味論と演繹推論 友納正裕 (日電)

[概要] 2 種類の確率論理の意味論を統合する枠組みを提案し, 確率的演繹推論の健全性を示す。

(5) 知識処理向きニューラルネットワーク LISM の学習検索アルゴリズムとルール抽出法

阿部一裕 (三菱電機)

[概要] 一部の値が不定である入力パターンを学習, 分類できる LISM について述べる。

(6) 計算機による詰め将棋評価システムの試作 松原 仁, 半田剣一, 元吉文男 (電総研)

[概要] 詰め将棋の問題の良さを自動的に評価するシステムを試作したのでその概要を述べる。

1 月 17 日 (金)

(7) 使用中セルのちらばりに注目した実時間塵集めの提案 中澤雅博 (セコム)

[概要] 使用中セルのちらばりに注目した実時間塵集めの提案を行い, その実験結果を報告する。

(8) 人間の知識処理に対する考察 (その 3) 一知能表現モデルの構成一 藤井和之 (清水建設)

[概要] 知能表現モデルを構成する 4 つのモジュールのより詳細な仮定を行う。

(9) Prolog のデータベース操作述語の最適化について 矢野稔裕, 瀧口伸雄, 小谷善行 (農工大)

[概要] データベース操作述語の使われ方に基づいて最適化する手法について述べる。

(10) 名辞論理体系に基づく自然言語文に対する推論法 一日本語質疑応答システムへの応用一

斎藤二三夫, 西原典孝, 森田憲一 (山形大)

[概要] 連体修飾構造を取り扱える名辞論理体系に基づいた日本語質疑応答システムについて述べる。

*同会場にて 17 日の午後と 18 日に電子情報通信学会 (人工知能と知識処理研究会) と人工知能学会 (知識ベースシステム研究会) の合同研究会が開催されます。

◆ 第 20 回 コンピュータと教育研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 有山正孝, 幹事: 雨宮幸雄, 大槻説乎, 竹谷 誠)

日 時 平成 4 年 1 月 17 日 (金) 13:30~17:00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) 短大の情報教育における画像データベースの適用 曾我聰起 (北海道栄養短大)

(2) パソコン・ウィンドウ環境における CAI コース開発

上田宏一 (金城短大), エンリケ・フィヨイ, 寺下陽一 (金沢工大)

(3) ノート型パソコンを利用した情報処理教育

伊藤俊秀, 中井哲夫, 柴山 守, 松本保美, 植松康祐 (大阪国際大)

- (4) ソフトウェア・プロセスによる設計教育環境の開発および評価 望月純夫, 山内 顕 (MSS)
- (5) 環境型語学用知的 CAI システム
山本秀樹, 田川忠道, 宮崎俊彦 (沖電気), 大場克哉, 井谷浩二 (オージー情報システム総研)
平山 輝 (大阪ガス)

◆ 第37回 情報システム研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 伊吹公夫, 幹事: 槻木公一, 西原良一, 初瀬川茂)

日 時 平成4年1月21日(火) 13:30~17:00
会 場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)
議 題 特集: 分散環境における情報システム

- (1) 日本のダウンサイジングの実際 角田好志 (三井銀ソフトウェアサービス)
〔概要〕 米国でのダウンサイジングの活発化の中, 日本での具体的提案に基づいた実際の考え方への所見。
- (2) 分散オフィス応用モデル (DOAM) の標準化動向 春田勝彦, 山上俊彦 (NTT)
〔概要〕 分散環境でのオフィス応用の機能モデル, プロトコル設計法などについて技術課題を中心に報告。
- (3) 文書格納・検索 (DFR) 応用の標準化動向 久保田浩司, 春田勝彦 (NTT)
〔概要〕 現在標準化が行われている分散オフィス環境での文書の格納, 検索応用の概要と技術課題を紹介。
- (4) 材料データベースの統合利用 芦野俊宏 (新日鉄)
〔概要〕 分散した材料データベースを, メタデータ情報を用いて透過的に利用するためのシステム。
- (5) クライアント・サーバによる機械翻訳システムの設計 諸橋正幸, 丸山 宏, 岡野裕之 (日本IBM)
〔概要〕 クライアント・サーバの環境における対話型の機械翻訳システムの設計方針とその実現法。

◆ 第53回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数: 12 件)

(主査: 河岡 司, 幹事: 滝沢 誠, 寺中勝美, 水野忠則)

日 時 平成4年1月23日(木) 10:00~17:00
会 場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)
議 題 特集: 分散協調システム

一般発表 —10:00~12:05—

- (1) 情報空間における対話環境の必要性 岡田謙一, 松浦宣彦, 松下 温 (慶大)
〔概要〕 分散環境での協調作業における情報空間内のインフォーマルな対話の場の必要性。
- (2) 社会科学の視点による CSCW の考察 幡鎌 博 (富士通)
〔概要〕 CSCW に関するいくつかの社会科学の視点を紹介し, 有効な利用方法や課題などを考察。
- (3) グループワークの柔軟な記述方法について 奥村晃弘, 北 英彦 (沖電気)
〔概要〕 フォームを用いたグループワークを柔軟性 (ユーザカスタマイズ, 例外処理) を考慮して記述する方法。
- (4) 協調行動過程に着目したノウハウ支援の拡張の検討 山上俊彦, 関 良明 (NTT)
〔概要〕 ノウハウ蓄積支援システムの経験に基づいたグループインタラクションの支援のための機能拡張。
- (5) 有限射影平面を利用したメッセージ数 $2n\lfloor\sqrt{n}\rfloor$ の分散合意プロトコル 中島 周 (日本IBM)
〔概要〕 有限射影平面を用いる Lakshman らの方法に比べたメッセージ数を半減する分散合意プロトコル。

—13:15~17:00—

● 特別セッション: 分散コンピューティングシステムの動向

- (6) 分散コンピューティング環境 (DCE) 永島道夫 (日本DEC)
- (7) オープンネットワークコンピューティング (ONC) 樋口貴章 (日本サンマイクロ)

一般発表

- (8) マルチメディア分散在席会議システム (MERMAID) を利用したグループアプリケーションの分散協調制御方式とその実現例 大森豊子, 前野和俊, 阪田史郎, 福岡秀幸 (日電)
〔概要〕 マルチメディア情報の同報, リアルタイム共有制御機能を用いた AP の分散協調制御方式と実現例。
- (9) 知的コミュニケーションツール I-CEM の共同執筆への適用 松浦宣彦, 平岩真一, 藤野 剛, 小島一仁, 松下 温 (慶大)
〔概要〕 メッセージの知的取扱いを目的とする I-CEM における共同執筆への適用についての方法と評価。

- (10) 拡散モデルに基づく協調分散制御システム 神余浩夫, 竹垣盛一 (三菱電機)
〔概要〕 故障や異常に対し局所的な相互作用で全体を協調適応させる拡散モデルに基づく分散制御システム。
- (11) 協調的交通管理システム 濱田 賢, 滝沢 誠 (東京電機大)
〔概要〕 輸送機の移動をトランザクションで示した輸送機が協調動作を行いながら移動する方法。
- (12) 利用者ごとの名前空間を提供する分散ファイルシステム 高野陽介 (日電)
〔概要〕 各利用者が所有しカスタマイズ可能な名前空間を通して遠隔ファイルを利用できる NFS 上のシステム。

◆ 第76回 コンピュータビジョン研究会

(予定発表件数: 17 件)

(主査: 谷内田正彦, 幹事: 富田文明, 尺長 健)

日 時 平成 4 年 1 月 23 日 (木) 9:00~18:30

24 日 (金) 9:00~12:00

会 場 大阪大学 工学部 機械系D棟 3階 大学院演習室

〔吹田市山田丘 2-1, 地下鉄(御堂筋線): 千里中央下車, バス(阪大本部前行): 終点下車, 徒歩 5 分, または阪急: 北千里下車, 徒歩 15 分. Tel. 06 (877) 5111 内 4707 (浅田 稔)〕

議 題

1 月 23 日 (木)

—9:00~12:00—

- (1) パノラマ表現を用いた環境地図の作成 植田健治, 石黒 浩, 辻 三郎 (阪大)
〔概要〕 パノラマ表現を用い, 内界センサによらずロボットの運動パラメータを求め, 環境情報を統合する。
- (2) Vision-based Behaviors for Indoor Mobile Robots
クアン イン ソー, 小野ロ一則, 渡辺 陸, 久野義徳 (東芝)
〔概要〕 Vision-based behaviors, using vanishing points and edges, for mobile robots are presented.
- (3) サインパターンによる移動ロボットの誘導法 西川和弘, 石黒 浩, 森 英雄 (山梨大)
〔概要〕 サインパターンの切り替えによる道路追跡とカメラの姿勢検出手法について述べる。
- (4) 色温度を考慮した影処理 モガダメ ナセロラへ, 森 英雄 (山梨大)
〔概要〕 単眼の視覚を持つ移動ロボットのための色温度を用いたアスファルト道路上での影の検出手法を述べる。
- (5) 正則化の拡張定式化 武川直樹 (NTT)
〔概要〕 正則化の拡張定式化を提案し, センサデータ統合を伴う動き場推定アルゴリズムへ適用する。
- (6) 因子分解法による連続画像中の物体認識手法の改良
高野秀也 (NTT データ), アレックス ペントランド (MIT)
〔概要〕 連続画像中の物体の運動と形状の算出手法を改良し, オクルージョンへの対応を可能とした手法を提案。

—13:10~17:20—

- (7) 画面中からの顔の検索と認識 小杉 信 (NTT)
〔概要〕 光景中から人間の顔画像を自動検出して顔の中央部を正確に切り出し, これを用いて個人認識する。
- (8) アクティブチューブによる非剛体物体の抽出と追跡 高畑 実, 今井正和, 辻 三郎 (阪大)
〔概要〕 エネルギー最小化の枠組により, 時空間画像中から非剛体物体の形状抽出と運動追跡を行う。
- (9) 時空間画像を用いた面構造の復元 安野貴之, 浜野輝夫, 石井健一郎 (NTT)
〔概要〕 運動立体視において, 遮蔽の情報を利用して特徴点を分類し立体面を再構成する手法を述べる。
- (10) 最小記述長基準に基づく 3 次元形状のパーツ分割 佐藤嘉伸, 大谷 淳, 石井健一郎 (NTT)
〔概要〕 最小記述長基準を用いて距離画像を準凸領域に分割する方法について述べる。
- (11) 二つの光源を用いた Photometric Stereo 法 楊 駿, 大西 昇, 杉江 昇 (名大)
〔概要〕 二つの光源のみを用いて, 物体表面の反射率を推定し, 三次元構造を復元する提案を述べる。
- (12) 線画解釈を用いた相互反射のある場合の Shape from Shading 岡本吉郎, 大西 昇, 杉江 昇 (名大)
〔概要〕 凹物体や複数物体では相互反射が誤推定の原因となるため, 線画解釈を用いた正確な形状復元を行う。
- (13) 弱一様乱反射仮定による筒状物体の形状および姿勢の決定 中村恭之, 浅田 稔, 白井良明 (阪大)
〔概要〕 厳密な一様乱反射を仮定することなく, 照明条件も必要がない, 筒状物体の形状と姿勢復元手法を報告。
- (14) 3 次元回転行列の最良推定とその応用 辻 弘行, 金谷健一 (群馬大)
〔概要〕 3 次元データに回転行列をあてはめる解析解をより厳密に定式化し, 理論的応用・誤差の影響を記述。

●見学：白井研究室

1月24日（金）

(15) コニックの3次元解釈とその応用 劉 武, 金谷健一（群馬大）

〔概要〕 画像上のコニックからその3次元位置を計算する理論と実験を示し、直交性の3次元解釈に応用。

(16) カメラの位置決めのない画像の幾何学的補正法 小野寺康浩（ソニー）, 金谷健一（群馬大）

〔概要〕 標準パターンとカメラを空間中の任意の位置に設置して画像の歪みを補正する手法を提案する。

(17) ジャンクションを抽出するファンオペレータ 中村高宏, 徐 剛, 辻 三郎（阪大）

〔概要〕 画像からジャンクションを抽出・分類する扇形のオペレータを提案。さらにエッジも同時に検出する。

*今回の研究会は電子情報通信学会（パターン認識と理解研究会）との共催で開催されます。上記会告は、11月7日現在の申込みによるもので上記以降の申込み分を含めた最終的なプログラムは電子情報通信学会誌 12月号に掲載されますのでご了承ください。

◆ 第84回 計算機アーキテクチャ研究会

（発表件数：11件）

（主査：富田眞治, 幹事：後藤厚宏, 村上和彰, 横田 実）

日 時 平成4年1月23日（木）13:30~18:00

24日（金）9:00~12:00

会 場 NTT 水上保養所 紫明荘

〔群馬県利根郡水上町大字湯檜曾字芳沢 15-1, JR（上越線）：湯檜曾下車、徒歩約3分。Tel. 0278 (72) 3650〕

議 題 一般発表および小特集：ディペンドブルシステム

1月23日（木）

(1) PN スーパースカラプロセッサ用コンパイラの構築 鈴木知美, 有田隆也, 曾和将容（名工大）

〔概要〕 機能分割型並列処理スーパースカラプロセッサ用コンパイラの構築。

(2) 静的順序制御機構を利用した大域的な最適化手法 小島聖司, 有田隆也, 曾和将容（名工大）

〔概要〕 分岐条件などの動的要素に対応するために生じていた同期オーバーヘッドの削減手法とその評価。

(3) パイプラインプロセッサ間のステージレベル静的順序制御方式の検討

高木浩光, 有田隆也, 曾和将容（名工大）

〔概要〕 複数のパイプラインプロセッサ間のステージレベル同期方式について高速な制御機構の構成法。

(4) DSN 型スーパースカラ・プロセッサ・プロトタイプ分岐およびロード/ストア・アーキテクチャの評価—

納富 昭, 久我守弘, 村上和彰（九大）, 富田眞治（京大）

〔概要〕 分岐およびロード/ストア・アーキテクチャの種々の特徴的機能をシミュレーションにより評価。

(5) 『順風』：MSF 型ベクトル・プロセッサ・プロトタイプ —演算パイプラインの構成—

橋本 隆, 岡崎恵三, 弘中哲夫, 村上和彰（九大）, 富田眞治（京大）

〔概要〕 複数ベクトル命令間でのマルチスレッド処理を可能にする演算パイプラインの構成。

(6) Prolog プロセッサ Pegasus-II のアーキテクチャとチップ実装 横田隆史, 瀬尾和男（三菱電機）

〔概要〕 約4倍の性能改善を達成した Prolog プロセッサ Pegasus-II の VLSI 実装を中心に報告。

(7) 高並列計算機 EM-4 における分散データ構造を用いたマルチスレッドプログラミング

佐藤三久, 児玉祐悦, 山口喜教, 坂井修一（電総研）

〔概要〕 EM-4 において逐次言語によるスレッドを用いたプログラミングでの分散データ構造の機能と実現。

1月24日（金）

(8) 階層トランザクション機構による UNIX 上の高信頼分散処理環境 金井達徳, 白木原敏雄（東芝）

〔概要〕 分散計算機上で信頼性の高いクライアント・サーバ型プログラムの開発・実行環境を構築。

(9) An Extended Fault Tolerant Batched Network Chak-man CHAN, Hideharu Amano（慶大）

〔概要〕 エレメント故障とリンク故障を両方に対応した耐故障性バッチャネットワークの提案と評価。

(10) ドーナツ構造 Loop Structured Computer (LSC) の提案とそのプロトタイプについて

吉岡良雄, 石田 努, 成田清人（弘前大）

〔概要〕 処理要素を立体的なドーナツ状に結合した超並列処理機構の提案動機と処理方式。

(11) スーパーデータベースコンピュータ (SDC) における性能評価支援システム

鈴木和宏, 原田昌信, 平野 聡, 喜連川優, 高木幹雄 (東大)

〔概要〕 スーパーデータベースコンピュータ (SDC) における性能評価支援システムの実装とその結果の報告。

*IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛

*本研究会は合宿形式で行います。参加ご希望の方は下記担当幹事までご連絡ください。

連絡先: 後藤厚宏 (NTT) Tel. 0422 (59) 2976 FAX 0422 (59) 4369 E-mail atsuhiro@lucifer. ntt. jp

◆ 第25回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 8件)

(主査: 西関隆夫, 幹事: 浅野孝夫, 岡本栄司, 安浦寛人)

日時 平成4年1月24日(金) 10:30~17:00

会場 日本電気 中央研究所 A 213 会議室

(川崎市宮前区宮崎 4-1-1, 東急田園都市線: 宮崎台下車, 徒歩 15分. Tel. 044 (855) 1111)

議題

—10:30~12:15—

(1) A Speculative Contraction Method for Minimum Cost Flows: Toward a Practical Algorithm

中野 淳, 岩野和生, 手塚 集 (日本IBM), 藤重 悟 (筑波大)

〔概要〕 最小費用流問題に対する Orlin のアルゴリズムに新たな手法を導入して理論・実験の両面から考察。

(2) 平面グラフの点素な道を求めるアルゴリズム

鈴木 均, 熊谷智明, 西関隆夫 (東北大)

〔概要〕 平面グラフの3つの面に端子対がある場合に各端子対を結ぶ点素な道を求める線形時間アルゴリズム。

(3) 正則グラフを生成するアルゴリズム

松田洋一, 榎原博之, 中野秀男 (阪大), 堀内 諭 (松下電器)

〔概要〕 すべての可能な正則グラフの中から任意の1つをランダムに生成するアルゴリズム。

—13:30~17:00—

(4) 弦生成問題への拡張平面掃引法の適用とその評価

佐々木整 (拓殖大), 佐藤政生 (早大)

〔概要〕 平面掃引法を高速化したアルゴリズム「拡張平面掃引法」の提案と計算機実験を通しての評価。

(5) 例題生成系の安全性について

岩間一雄, 宮野英次 (九大)

〔概要〕 アルゴリズムの効率を実験的に評価するための例題生成系の安全性。

(6) 制約付き疑似乱数の生成

山上俊彦 (NTT)

〔概要〕 部分一致型認証に利用される '1' が m 個という制約をもつ n ビット乱数の生成アルゴリズム。

(7) 協調問題解決手法の並列化

炭田昌人, 進藤静一 (三菱電機)

〔概要〕 協調問題解決の一手法であるコントラクト・ネットを並列化する方法と評価。

(8) リングの方向付け問題を解く自己安定アルゴリズム

片山喜章, 増澤利光, 都倉信樹 (阪大)

〔概要〕 リング状のネットワーク上でリングの方向付け問題を解く自己安定アルゴリズム。

◆ 第2回 オーディオビジュアル複合情報処理研究グループ研究発表会

(発表件数: 4件)

(主査: 富永英義, 幹事: 安田 浩, 村上仁己, 二宮佑一)

日時 平成4年1月17日(金) 13:30~16:00 (13:15 受付開始)

会場 機械振興会館 6階 66号室 (所在地は前記参照)

議題

(1) CSCW と情報化社会

吉井博明 (文教大)

(2) MERMAID システムの現状と動向

坂田史郎 (NEC)

(3) PMTC システムの現状と動向

島村和典 (NTT)

(4) MPEG 久里浜/シンガポール会合報告

日高恒義 (JVC)

*電子情報通信学会 (画像工学研究会) との協賛で行われます。

参加費 情報処理学会, 電子情報通信学会会員: 1,200円 その他: 2,000円

申込み方法 下記申込み先へ電話か FAX でお申込みください。その際, ご所属, 氏名, 電話・FAX 番号をお知らせください。参加費は当日会場受付で徴収します。なお, 会場の都合により先着 100名さまに限定させていただきます。定員を超過した場合にはご連絡いたします。

申込み先: 安田 浩 (NTT) Tel. 0468 (59) 2800 FAX 0468 (59) 2829
 一之瀬進 (NTT) Tel. 0468 (59) 8374 FAX 0468 (59) 3050

◆「テクニカルコミュニケーション」研究グループの新設について

(主査: 山田尚勇, 幹事: 牛島和夫, 空閑茂起, 福島敏高)

テクニカルコミュニケーション分野の健全な発展のため, 上記研究グループにて研究活動を平成3年11月より活動していくこととなりました。近年, テクニカルコミュニケーション技術は, マニュアルを始めとした技術情報の質, 量の抜本的改善が社会的要求となってきたのにもなって, 科学, 工学から教育学, 心理学の分野にいたるまでの幅広い研究活動が行われるようになり, 強い関心を集め始めています。そこで, テクニカルコミュニケーションとして総合的, かつ有機的に研究・討議することを目的に, 本研究グループが新設されました。

本研究グループは, 技術情報の体系化・標準化, また技術情報の推考・査読・校正・評価および流通・管理システムの科学的理論の確立, そして, それらに基づいた工業技術の開発について, 専門的かつ包括的な研究を対象に活動を進めていく予定です。

◆ 第1回 テクニカルコミュニケーション研究グループ研究会

(発表件数: 2件)

(主査: 山田尚勇 幹事: 牛島和夫, 空閑茂起, 福島敏高)

日 時 平成4年1月22日(水) 13:30~17:00

会 場 日本工業技術振興協会 会議室

(東京都港区赤坂 2-14-5 プラザミカドビル6階, 地下鉄: 赤坂(千代田線)下車, 徒歩3分, 赤坂見附(銀座線)下車, 徒歩8分. Tel. 03 (3584) 0207)

議 題

(1) KJ法の計算機支援

大岩 元(豊橋技科大)

(2) 日本語文章推敲支援ツール『推敲』の研究開発

牛島和夫, 菅沼 明(九大)

* (社)日本工業技術振興協会と合同で開催します。

参加費 1,000円

問合せ・申込み先: 福島敏高(富士通) Tel. 03 (3216) 9725 FAX 03 (3215) 5987

◆「音声言語情報処理と音声入出力装置」研究グループの新設について

(主査: 中川聖一, 幹事: 新田恒雄, 小林 豊, 岡田美智男)

音声情報処理の研究は, 線形予測分析と隠れマルコフモデルの確立により格段に進歩しました。今後は, 音声言語モデル, 音声対話が研究のターゲットになると予想されますが, もともと構文的に統制のない発話文からくる極めて ill-formed な世界を扱わざるを得ないために, 新たな言語処理や知識処理技術が要求されます。

また, 最近の音声研究の進歩により音声合成装置, 音声認識装置が計算機や情報処理機器, 民生品の入出力手段として現実味をおびてきています。このことから音声インタフェースやマルチメディアとしての音声研究が必要になってきました。

これらの問題を幅広く議論するため, 上記研究グループを平成4年4月に設立し, 2年間活動していくことになりました。テーマ別に年間3回程度の研究討論会を計画しています。そのつどお知らせいたしますので積極的なご参加をお願いいたします。

◆マイクロコンピュータとワークステーション研究会

第71回 研究会を下記のとおり計画しています。同回は本研究会最終回となるため, 下記の特集を組み, 特別講演と歴代主査によるパネルディスカッションを予定しています。詳細は次号(1月号)の本欄にてお知らせいたします。

日 程 平成4年2月7日(金)

会 場 機械振興会館

議 題 特集: マイクロコンピュータと社会

第 42 回 全国大会学術奨励賞の表彰

第 42 回 全国大会奨励賞は、去る 10 月 19 日～22 日に名古屋大学工学部で開催された第 43 回 全国大会の席上、会長から下記 11 君に授与されました。

本賞は今年 3 月開催の第 42 回全国大会（於東京工科大学）の発表論文を対象に、奨励賞委員会（委員長 石田副会長）において表彰規程にもとづき、総発表件数 1012 件中推薦のあった 52 名の候補者の中から 16 名を選び、さらに慎重審議の結果、11 名が受賞候補者として推薦され、第 356 回理事会（平成 3 年 7 月）の承認をえて決定されたものです。

一般化弁別ネットワークを用いた日本語解析（3C—4）

奥村 学君（正会員）

1962 年生。1984 年東京工業大学工学部情報工学科卒業。1989 年同大学院博士課程修了。現在、東京工業大学工学部情報工学科助手。工学博士。自然言語理解、知識表現に関する研究に従事。日本ソフトウェア科学会、認知科学会、人工知能学会、AAAI 各会員。

対話の構造と単語の概念を利用した発話の理解（4C—1）

荒木 雅弘君（正会員）

1964 年生。1988 年京都大学工学部情報工学科卒業。1990 年同大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。現在、同大学院工学研究科情報工学専攻博士課程に在学中。音声言語理解の研究に従事。電子情報通信学会、人工知能学会、認知科学会各会員。

追記学習型ニューラルネット（1E—8）

佐藤 敦君（正会員）

1960 年生。1989 年東北大学大学院理学研究科原子核理学専攻博士課程後期修了。理学博士。同年日本電気(株)入社。現在同社 C&C 情報研究所パターン認識研究部にて、人工神経回路網を用いたパターン認識の研究に従事。電子情報通信学会、神経回路学会、日本物理学会各会員。

テクニカルイラストレーション自動生成システム（3F—8）

玉柏 和男君（正会員）

昭和 40 年生。平成元年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業。平成 3 年同大学院修士課程修了。同年シャープ(株)入社。人工知能、機械系 CAD、電気系 CAD に興味を持つ。現在はシリコンコンパイラの研究に従事。

動的制約充足問題のための制約維持機構について（6F—5）

野中 哲君（正会員）

昭和 39 年生。平成元年東京大学工学部電気工学科卒業。同年、NTT データ通信(株)に入社。現在、同社開発本部にて、定性推論、ATMS、制約充足器を適用した道路交通状態予測システムの研究開発に従事。交通工学研究会会員。

データ駆動計算機 EDDEN の要素プロセッサ LSI（3H—6）

三浦 宏喜君（正会員）

1959 年生。1982 年京都大学工学部情報工学科卒業。同年三洋電機(株)に入社。デジタル信号処理、計算機アーキテクチャ、並列処理、データフローマシン等の研究に従事。現在、同社情報通信システム研究所コンピュータ研究部に所属。

2 モジュール構成のスーパーデータベースコンピュータ (SDC) の試作と評価 (3L-7)**平野 聡君 (正会員)**

1962年生。1985年電気通信大学電気通信学部材料科学科卒業。1987年同大学院電気通信学研究科経営工学専攻修了。現在、東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程に在学中。オブジェクト指向言語、並列アーキテクチャ、データベースマシンの研究に従事。IEEE CS 会員。

Modeling the Diffuse Paintings of 'Sumie' (4N-3)**郭 清蓮君 (正会員)**

1963年生。1985年中国西安電子科学技術大学計算機学科卒業。1986年政府派遣留学生として来日、現在東京大学理学部情報科博士課程在籍。コンピュータグラフィクス、画像処理、コンピュータアートに興味を持つ。ACM SIGGRAPH 及び IEEE 会員。

パーソナルコンピュータ用 3次元グラフィクスボードによる準リアルタイムの影付け (6P-2)**森 健一君 (正会員)**

昭和40年生。平成2年東北大学大学院工学研究科電気及び通信工学専攻修士課程修了。同年(株)東芝入社。現在、同社総合研究所情報システム研究所に所属。コンピュータグラフィクスを利用したマンマシンインタフェースの研究に従事。

プレゼンテーション文書作成システムの開発 (7Q-5)**高橋 亨君 (正会員)**

1959年生。1981年山形大学工学部精密工学科卒業。1983年東北大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程修了。同年日立製作所(株)入社。現在、同社システム開発研究所に所属し、マルチメディア関連の研究に従事。微力ながら ISO における文書記述言語関連の標準化活動にも参加している。

設計履歴を利用したソフトウェア設計・保守支援方式 (7S-5)**浜田 雅樹君 (正会員)**

1960年生。1983年慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。1985年同大学院修士課程修了。同年日本電信電話(株)入社。NTT ソフトウェア研究所を経て、1990年から ATR 通信システム研究所(株)に出向、現在に至る。ソフトウェア生産技術の研究に従事。電子情報通信学会会員。

論文賞候補の論文推薦のお願い

平成3年度論文賞の候補論文を推薦される会員は、下記事項を参考のうえ、論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名を官製はがきに記入のうえ、本会論文賞係宛お送りください。

論文選定条件

1. 選定範囲および推薦数

平成2年10月から平成3年9月までの間に「情報処理学会論文誌」(Vol. 31, No. 10~Vol. 32, No. 9) および「Journal of INFORMATION PROCESSING」(Vol. 13, No. 3 ~ Vol. 14, No. 2) に発表された論文の中から1編。

2. 推薦資格

本会正会員に限ります。

3. 締切日

平成4年1月31日(金)

表彰規程(抜粋)

第3章 論文賞

- 第9条 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。
- 第10条 表彰する論文は、原則として毎年4編とするが、編数は事情により変更することができる。
- 第11条 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の10月から前年の9月までの間に発表されたものであることを要する。
- 第12条 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。
- 第13条 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。
- 第14条 論文賞は、賞状、賞牌および賞金とする。賞金は、論文1編につき30,000円とする。

本会協賛等の行事案内*

講習会「ファジィの基礎から実用化技術まで」

平成4年1月16日(木)~17日(金)

愛知県厚生年金会館

IPAL シンポジウム 平成4年1月20日(月)

東京・虎ノ門パストラル

SICE 基礎講習会—デジタル信号処理—

平成4年1月24日(金)

東京・家の光会館

第182回 講習会「次世代FA ソフトウェア開発の方向性と標準化の動向」

平成4年2月7日(金)

東京・中央大学

第7回 OA 全国総合大会 平成4年2月13日(木)~14日(金)

パシフィコ横浜

PS JAPAN 92—'92 スイッチング電源システム展・シンポジウム

平成4年2月25日(火)~28日(金)

東京・サンシャインシティコンベンションセンター TOKYO

ボード・コンピュータ'92

平成4年2月26日(水)~28日(金)

東京・サンシャインシティコンベンションセンター TOKYO

平成3年度ORセミナー「ファジィ多目的計画法の基礎と応用」

平成4年3月4日(水)

東京ガス

「MTワールド'92」 平成4年3月18日(水)~19日(木)

テピア会館

第9回 光波センシング技術研究会 平成4年5月21日(木)~22日(金)

千葉・幕張メッセ

SYNAPSE '92—ニューラルネットワークシンポジウム

平成4年6月24日(水)~26日(金)

大阪・千里阪急ホテル

平成4年度 工学・工業教育研究講演会

平成4年7月22日(水)~24日(金)

東京・電気通信大学

第6回 日本 ME 学会秋季大会

平成4年10月16日(金)~17日(土)

九州工業大学

* 詳細は本号会議案内欄参照

第44回全国大会予約案内

第41回全国大会(平成2年後期)から、講演論文集の分売制を導入いたしました。これにより、論文集の価格が大幅に変わりましたので、購入担当者の方ご注意ください。

つきましては、講演論文集・参加の「予約」を募集いたしますので、ぜひお申込みくださいますようお願い申し上げます。

期 日：平成4年3月17日(火)～20日(金)

会 場：明治大学工学部(川崎市多摩区東三田)

論文集：B5判オフセット印刷 ※論文集価格は消費税・送料込です

■第1分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

情報科学一般

基礎理論及び基礎技術

ネットワーク

応用

■第2分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

人工能及び認知科学

人工能システム

パターン認識

生体情報処理

感性情報処理

データ処理

音声処理

画像・図形処理

■第3分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

人工能及び認知科学

基礎理論

自然言語処理

データ処理

テキスト処理

マルチメディア処理

■第4分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

ソフトウェア

基礎理論

オペレーティングシステム

データベース・情報検索

プログラミング技術

信頼性と安全性

■第5分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

ソフトウェア

プログラム言語及び仕様記述言語

言語処理系

ツール

ソフトウェア工学

■第6分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

ハードウェア

システム

■セット(上記6冊一揃、講演者索引・カバー付)……………予約価24,000円
(定価36,000円)

参加費(プログラム・参加章含む)：会 員1,000円(賛助会員は正会員に準じます)。

非会員2,000円、学生 無料

申込締切：平成4年2月3日(月)必着

(締切後は予約扱いいたしませんので、ご了承ください)

第 44 回 (平成 4 年前期) 全国大会 論文集・参加予約申込書

■申込締切：2月3日(月)必着

分 冊	予 約 価 (円)	部 数	金 額 (円)
第 1 分 冊	4,000		
第 2 分 冊	4,000		
第 3 分 冊	4,000		
第 4 分 冊	4,000		
第 5 分 冊	4,000		
第 6 分 冊	4,000		
セ ッ ト (6冊一揃)	24,000		
参 加 費 (プログラム, 参加章 含む)	会 員 1,000		
	非会員 2,000		
合 計			

平成 年 月 日
上記の通り予約いたします。

(論文集価格は消費税・送料込)

1. 代金は 郵便振替, 銀行振込* (該当にレ印) 送金月日 月 日
*全国大会専用銀行口座「三菱銀行虎ノ門公務部情報処理学会講習会普通口座
No. 0003774」
2. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通が必要です。
〔注意〕 団体名でまとめて送金される場合には, 別紙に送金内訳を記入して事務局
までお送りください。

通信欄:

3. 担当者名 _____ Tel. _____ (内 _____)
4. 申込先: 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F
(社)情報処理学会 全国大会係 Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

..... (切りはなさないでください)

(送本先住所) (楷書でハッキリ記入してください)

〒

(機関名)

(氏 名) _____ 殿

(Tel.) _____

[部数] (記入しないでください)

論 (1 2 3 4 5 6 ⊕) プ・参

「1992 情報学シンポジウム」開催について

——ゲノムと情報科学——

日時 1992年1月8日(水)～9日(木) 9:30～17:00
場所 日本学術会議講堂(地下鉄千代田線, 乃木坂駅下車)
背景 本シンポジウムは, 科学における情報の円滑な流通と高度利用を促進するため, データ・情報・知識に関する基本的問題を論じる場として, 1984年以來毎年開催されている。これまで, データ・情報・知識の獲得・蓄積・利用の問題について, 自然科学から人文科学まで多様な専門分野から発表が行われている。

共同主催 (予定) 日本学術会議 情報学研究連絡委員会
 学術文献情報研究連絡委員会
 学術データ情報研究連絡委員会
 情報工学研究連絡委員会
 情報処理学会, 人工知能学会, 日本医学会, 日本化学会, 日本数学会, 日本地理学会, 日本物理学会, 情報知能学会, 日本生物物理学会

後援 (予定) 学術情報センター, 計測自動制御学会, 国際電信電話, 情報科学技術協会, 情報通信学会, 電子情報通信学会, 日本医療情報学会, 日本科学技術情報センター, 日本機械学会, 日本金属学会, 日本原子力学会, 日本材料科学会, 日本材料学会, 日本生化学会, 日本電信電話, 日本動物学会, 日本農学会, 日本分子生物学会, 日本分析化学会, 日本薬学会, 化学情報協会, ICOT

申込締切 12月20日(金) 当日受付もあるが, 資料不足の際は事前登場者を優先する。

申込先 情報処理学会 情報学シンポジウム係
 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3F
 Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

参加費 (資料代として): 共催学協会員 5,000円, 学生 1,500円, 一般 7,000円

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第1日 1月8日(水)

組織委員長挨拶 (9:20～9:30) 尾関 雅則 (日本学術会議情報学研究連絡委員会委員長)

セッション1 ゲノム研究の展望 座長 藤原 譲 (筑波大)

(特別講演) ヒトゲノム解析計画と情報科学 (9:30～10:30) 松原 謙一 (阪大)

— 休憩 (10:30～10:40) —

座長 館野 義男 (国立遺伝学研究所)

ゲノム情報のデータベース化の現状と問題点 (10:40～11:05)

久原 哲, 古川 哲也, 高木 利久 (九大)

GDB (ゲノムデータベース) とネットワーク構想 (11:05～11:30)

諏訪 秀策, 宇津野宏二 (日本科学技術情報センター), 清水 信義 (慶大)

日本語ヒト遺伝子マップライブラリの設計 (11:30～11:55)

土肥 浩 (東大), 蓑島 伸生, 清水 信義 (慶大), 石塚 満 (東大)

— 昼食 (11:55～13:00) —

セッション2 高次構造の推論 座長 開原 成允 (東大)

(招待講演) 生化学エキスパートシステムとドラッグデザイン (13:00～13:50)

梅山 秀明 (北里大)

座長 北上 始 (国立遺伝学研究所)

— 休憩 (13:50～14:00) —

(招待講演) 演繹データベースシステム Adbis を応用した遺伝子

—蛋白質解析システム GENAS について (14:00~14:50)

高木 利久, 久原 哲, 古市恵美子, 二村 祥一, 松尾 文碩, 榑 佳之 (九大)

—休憩 (14:50~15:00)—

セッション 3 データベースの構築・利用 (1) 座長 吉田 郁三 (日立)

Overlapping Oligonucleotide Database の構築 (15:00~15:25)

坂本 憲広, 高木 利久, 佐藤 賢二, 榑 佳之 (九大)

蛋白質 2次元電気泳動データベースの作成 (15:25~15:50)

加茂 正晴, 矢野 裕之, 次田 皓 (東理大)

—休憩 (15:50~16:00)—

セッション 4 データベースの構築・利用 (2) 座長 中川 優 (NTT)

ゲノムデータベース中の複合蛋白データベース (16:00~16:25)

沖林 文規, 国沢 隆, 加茂 政晴, 鈴木 陽子,

猪浦 裕子, 佐竹 一夫, 次田 皓 (東理大)

JOIS-F における DNA データベース検索システムについて (16:25~16:50)

水野 路子 (日本科学技術情報センター)

まとめ (16:50~17:00)

第2日 1月9日 (木)

セッション 5 アルゴリズム・アーキテクチャ (1) 座長 岩野 和生 (日本 IBM)

3次元ダイナミックプログラミングに基づいた蛋白質のアラインメントシステム

(9:30~9:55)

広沢 誠, 星田 昌紀, 石川 幹人, 戸谷 智之 (ICOT)

化学構造の最大共通部分構造の検出方法について (9:55~10:20) 阿久津達也 (機械技術研究所)

可変長符号圧縮データのための文字列パターン照合 —ゲノム情報の高速検索技法—

(10:20~10:45)

深町 修一, 篠原 武 (九工大), 竹田 正幸 (九大)

—休憩 (10:45~10:55)—

セッション 6 アルゴリズム・アーキテクチャ (2) 座長 石川 幹人 (ICOT)

Fast DNA Data Analysis System (10:55~11:20)

Richard H. Lussier (アップライドバイオシステムズジャパン)

タンパク質の二面角構造予測と予測規則の抽出 —ニューラルネットワークを用いた検討—

(11:20~11:45)

中山 伸一, 吉田 政幸 (図書館情報大)

対称相互結合型ニューラルネットワークにおけるエネルギー極小化現象を利用した高速な RNA

二次構造予測法 (11:45~12:10)

秋山 泰, 古谷 立美 (電総研)

—昼食 (12:10~13:10)—

セッション 7 遺伝情報 座長 安永 照雄 (理化学研究所)

(招待講演) ゲノムを中心とした大量遺伝情報の分子進化的解析 (13:10~14:00)

五條堀 孝 (国立遺伝学研究所)

ゲノム情報に基づく生物種固有代謝の解析 (14:00~14:25) 金谷 重彦, 工藤 喜弘 (山形大)

—休憩 (14:25~14:35)—

セッション 8 ゲノム解析 座長 菅原 英明 (理化学研究所)

(招待講演) ヒトゲノム解析自動システム (HUGA-1) (14:35~15:20)

遠藤 勲 (理化学研究所)

(招待講演) ヒトゲノム解析の推進方策について (15:20~15:50)

松尾 泰樹 (科学技術庁)

まとめと総括 (15:50~16:50)

**「1992 情報学」シンポジウム
参加申込書**

平成 3 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○資料代 (該当するものを○でかこむ)

共催学協会員 5,000 円 一般 7,000 円 学生会員 1,500 円

○懇親会費 (3,000 円) _____ 名

○資料のみ (上記資料代) _____ 冊

○送金方法

- * _____ 円を a) 当日, 会場受付にて支払います。
b) _____ 月 _____ 日送金します。

* (b を選択した方のみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03 (3505) 0505)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店	1013945	富士銀行虎ノ門支店	993632
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608	太陽神戸三井銀行東京 営業部	4298739
住友銀行東京公務部	10899	三和銀行東京公務部	21409
名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会			

- ・送金先銀行名 _____ 銀行宛
- ・送金取扱銀行名 _____ 銀行 _____ 支店より
- ・送金人名義 _____ 様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。(コピーで申し込むこと)

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関名 _____

フリガナ

氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

「知識ベースシステムにおける高速推論技術」 チュートリアル開催について

知識ベースシステムの推論の高速化技術は、人工知能、知識処理の基盤として、また現在および今後の実用システム作成上で極めて重要であります。高速推論技術がともなわなければ、実用規模の知識ベースは知的能力を発揮することができません。

人工知能研究会では知識処理の基盤技術の研究・開発、および実用システム開発に携わっている方々を対象にして、推論の高速化達成へ向けての技術に焦点を当てて、標記チュートリアルを企画いたしました。推論の高速化に関する技術・話題を複数の視点から、それぞれの専門家に下記のように解説していただきます。この機会を利用し、多数ご参加されるようお勧めいたします。

日 時 平成4年2月12日(水)、13日(木)
会 場 機械振興会館 研修1号室(地下3階)(東京都港区芝公園 3-5-8)
参加費 会員 25,000円、非会員 33,000円、学生 5,000円(テキスト代を含む)
申込締切 平成4年1月31日

~~~~~プログラム~~~~~

第1日 2月12日(水)

10:00~11:45	プロダクションシステムの高速化技術	増位 庄一(日立)
13:00~14:45	ATMSにおける高速化技術	奥乃 博(NTT)
15:00~16:45	制約充足問題の高速解法	西原 清一(筑波大)

第2日 2月13日(木)

9:40~11:25	ニューラルネットワークによる高速並列解法	秋山 泰(電総研)
12:45~14:20	知識ベースのコンパイルによる高速推論法	石塚 満(東大)
14:30~16:15	合成型問題のための制約充足の高速解法	吉田 裕之(富士通研)

平成3年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の 納入にご協力ください

去る11月中旬に、本年度会費未納の方には、郵便振替用紙によって、再々請求のお願いをいたしました。ご承知のとおり、会費は前納制(すでに多くの方がたは納入済みです)ですし、会費納入の催促は手数や郵便料がかさみ、大きな負担となっております。事情をお察しのうえ、早急にご納入くださいますよう、よろしく申し上げます。

〔自動振替納入利用の会員へ〕

去る7月27日の振替日に残高不足等で振替未済の会員は、次回振替日が来年3月27日となり、会費が1年間滞納となります。すでに個々にご通知しましたが振替未済の方は会員係に連絡いただき、早急に別途ご納入ください。

「知識ベースシステムにおける高速推論技術」チュートリアル
参加申込書

平成 年 月 日

標記チュートリアル・セッションの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員 25,000円 非会員 33,000円 学生 (含大学院生) 5,000円

*参加費には、資料代が含まれています。

○資料のみ (4,000円, 送料込) _____冊

○申込先 情報処理学会 「高速推論」チュートリアル係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル3F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

○送金方法

- * _____円を a) 当日, 会場受付にて支払います。
b) _____月 _____日送金します。

* (bを選択した方のみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
(社)情報処理学会 チュートリアル係)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京営業部 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

- ・送金先銀行名 _____銀行宛
- ・送金取扱銀行名 _____銀行 _____支店より
- ・送金人名義 _____様

*請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。(コピーで申し込むこと)

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関名 _____

フリガナ
氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

海外からの送金方法について

海外からの会費、論文誌購読費、各種行事参加費、各種図書購入費等の送金については、円またはドルの銀行小切手によると、次のような問題があります。

1. 銀行小切手作成の手間がかかる。
2. ドル送金の場合は為替相場の変動により、常に過不足を生じ、経理上支障がある。
3. 円またはドルに拘らず、1,500～2,500円の換金手数料をとられる。

このため、海外からは「VISA」、「Master Card」、「American Express」および「Diner's Club」により円立で送金できますのでお知らせします。なお、申込書様式は次のとおりとしますが、A4判用紙を用い必ず郵送してください (FAXは不可)。

If you wish to pay with your credit card, please fill in the following form and mail it back to the Information Processing Society of Japan.

To: INFORMATION PROCESSING SOCIETY OF JAPAN

Hoshina Bldg., 2-4-2 Azabudai, Minato-ku

Tokyo 106, Japan

Phone: 81-3-3505-0505 FAX: 81-3-3584-7925

I wish to pay with my credit card.

Circle one: Master Card VISA American Express Diner's Club

- (1) Card number _____
- (2) Expiry date _____ / _____
- (3) Full name of holder as it appears on the card _____
- (4) Amount _____ Japanese Yen
- (5) Details (annual fees, journal, etc.) _____

- (6) Mailing address _____

(Country) _____

Phone _____

FAX _____

Date _____

Signature _____

Note: The fees can also be paid by cash or by bank draft. In the case of bank draft, please add the handling charge ¥ 1,500 to the total amount. We cannot accept personal check.

Remit to: Information Processing Society of Japan

Bank account no. 046-1013945

Toranomon Branch, The DAI-ICHI-KANGYO BANK, LTD.

「情報システムの計画と設計」平成3年12月上旬刊行

情報処理学会編・培風館発行 B5判・312頁・定価5400円（消費税込）

本書は、本会が開催した「情報システムの計画と設計チュートリアル」のテキストをもとに、チュートリアル受講者の反応を加味し、新たな章を加えるなど内容面の充実と、読みやすく・わかりやすい表現への改訂を行い再編集したものである。

全体は下記目次のように5部構成となっている。

- I部：情報システムの構築がどのように行われるか、その中で計画・設計がどのような意味をもち、そこで何が行われるかの全体像を、SISへの対応を含め論ずる。
- II部：計画・設計の中心である新しい“システムの姿”を描くのに使われる基礎的な分析・設計技法を解説する。
- III部：CASEの概念と現状、および適用の考え方、CASEに含まれるソフトウェア新技術について述べる。
- IV部：企業から提供されている方法論について、方法論とはいかなるものか、情報システムの計画・設計段階で発生する個々の問題に対し、具体的にどのような進め方があるか、各方法論がどのような体系でつくられているかを解説する。
- V部：幅広い知識と識見が要求されるシステム設計者の教育・育成に関する問題を論ずる。

■ ユーザ企業のコンピュータ部門、コンピュータメーカ、ソフトハウスなどの情報システム構築の担当者、大学・研究機関における研究者、学生を対象とする。

I部 情報システム計画・設計の概要

1. 情報システムの構築にあたって
2. 経営モデルと情報化戦略

2. 経営戦略と情報技術：UNISIS ARCHI-TEC-TURE と RSDM & PPP

3. SIS構築の方法論：HIPLAN

4. 業務部門主導型のシステム開発方法論：PRIDE
5. AI, ORを適用した問題解決指向型システム設計：SOLOMON

6. 戦略的システム構築：SSCM

7. 問題分析からシステム概要設計へ：PROMOTION/DP

8. システム要求分析技法：C-NAP II

9. これからのアプリケーション開発環境：AD/Cycle

II部 基礎的なシステム分析・設計技法

1. データ主導型システム分析・設計技法
2. SSADM：構造システム分析・設計法
3. ジャクソンシステム開発法
4. オブジェクト指向
5. オブジェクト指向分析・設計法

III部 システム設計支援環境

1. CASEの現状と導入方法
2. CASE環境に含まれる新技術

V部 システム設計者の学ぶもの

よりよい情報システム構築のために

IV部 情報システム計画・設計方法論

1. 経営戦略とシステムの融合：METHODE/1

和文索引 欧文索引

●注文は培風館または最寄りの書店にてお求めください。（情報処理学会では扱っておりません）

電子情報通信学会創立 75 周年記念 懸賞論文募集のお知らせ

電子情報通信学会は、電子・情報・通信の諸分野で活躍する 3 万 8 千名以上の研究者・技術者からなる学術団体で、平成 4 年 5 月 1 日をもって創立 75 周年を迎えます。そこで 75 周年記念事業の一環として、記念懸賞論文の募集を行い、若い世代の皆様からの独創的かつ意欲的な論文を募ることになりました。奮って御応募下さい。

〔テーマと論文タイトル〕 「21 世紀の電子情報通信と社会」をテーマとして、エレクトロニクス、コンピュータ、電気通信の発展と、これらがもたらす未来社会について、夢や提言などを下記の例を参考に、自由なタイトルでお書き下さい。

- 例) ① 21 世紀におけるエレクトロニクス
② パソコン通信の夢と将来
③ 電子情報通信と豊かなライフスタイル
④ コンピュータ技術の進歩と新しい文化
⑤ 地球環境とエレクトロニクス

〔賞および賞金〕

最優秀賞	1 件	50 万円/件
優秀賞	2 件	30 万円/件
佳作	6 件	10 万円/件

なお、応募者全員に記念品を贈呈致します。

〔応募資格〕 論文締切日の時点で、30 歳以下（1962 年 4 月 1 日以降に生まれた方）国籍および本学会会員、非会員については問いません。ただし、一人一論文、連名は不可とします。

- 〔応募方法〕
- (1) 日本語または英語の自作の未発表のものに限ります。
 - (2) 和文の場合は、400 字詰め原稿用紙 12 枚以上 20 枚以内。ワープロ使用も可とします。
英文の場合は、1 行 50 ストロークで 200 行以上 330 行以内。ダブルスペースで A4 判用紙にタイプして下さい。
 - (3) 1 枚目は表紙とし、論文タイトル、氏名（ふりがな付き）、年齢、生年月日、住所（連絡先）、郵便番号、電話番号、学校（学部、専攻、学年）名、または、勤務先（部、課）名、及び、所在地、所属学会があれば所属学会名を明記して下さい。
 - (4) 他の文献からの引用箇所には、参考文献の番号を明記し、本文の巻末に参考文献の一覧表を付記して下さい。
 - (5) オリジナル原稿にコピーを 3 部つけて下さい。
 - (6) 入選論文については著作権を電子情報通信学会に譲渡して頂きます。
 - (7) 応募論文は返却致しません。

〔論文締切〕 平成 4 年 3 月 31 日

〔応募宛先〕 封筒に「記念懸賞論文在中」と明記して、書留で郵送して下さい。
〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内
電子情報通信学会 記念懸賞論文募集係
電話 03-3433-6691（代表）

〔審査決定〕 論文の選考は、記念論文選考委員会が行い、平成 4 年 7 月下旬に審査決定されます。受賞者は、平成 4 年 9 月下旬の電子情報通信学会創立 75 周年式典で表彰され、また、最優秀論文並びに優秀論文は、本学会誌平成 4 年 11 月号に掲載されます。

「第4回ソフトウェアプロセスワークショップ」 論文および参加者募集

日本ソフトウェア科学会「ソフトウェアプロセス研究会」では、情報処理学会「ソフトウェア工学研究会」およびソフトウェア技術者協会との共催で、下記要領で第4回ソフトウェアプロセスワークショップを開催します。皆さま、奮ってご応募、ご参加ください。

日時 1992年2月12日(水)12:00より2月14日(金)13:00まで2泊3日
場所 日本タイムシェアシステム総合研究所 研修センター(浜名湖湖畔)
目的

ソフトウェアプロセスに関する研究はしだいにさかになり、米国では国防省と契約を結ぶ会社の評価項目の一つとして、W.Hamphreyの提唱したプロセス成熟度が加えられる等、社会的にもその重要性が認知されつつあります。また1991年10月には、過去に6回開催されたISPW(International Software Process Workshop)の実績を基礎にして、初の国際会議もカリフォルニアで開催されました。

ソフトウェアプロセスの研究分野では、日本の研究者は、研究が開始された時期から世界的な研究の流れと一致して、研究コミュニティの形成に寄与するとともに、日本独自の問題点も検討しつつ、研究・技術開発の努力を継続してきました。一方、企業においても、各社のソフトウェアプロセスの調査や形式化がさかんに試行されはじめております。

このような活動をより組織的にすることにより、日本におけるソフトウェア開発活動の規範性と柔軟性を高め、自動化を推進していくための努力を結集する必要があるかと思われます。基礎研究にたずさわる研究者の方々、実践の場で問題の解決に努力されている技術者の方々、どうぞ奮ってご参加ください。

トピック

応募論文の話題は主に以下の範囲を考えています。

これら以外にもソフトウェアプロセスに関連する話題であれば歓迎します。

- ・大規模ソフトウェア開発におけるソフトウェアプロセスの調査と形式化
- ・分散開発環境時代のソフトウェアプロセス
- ・(CASEツールと)プロセスモデルに基づく統合環境
- ・ソフトウェアプロセスの表現法(プロセス記述言語)とその実行環境
- ・ソフトウェアプロセスモデリング手法
- ・グループウェアとソフトウェアプロセス
- ・オブジェクト指向開発法への技術移転プロセス

「分散開発環境時代のソフトウェアプロセス」についてはパネル討論も計画しています。

論文応募方法

- (1) フルペーパー(A4で8頁以内)またはアブストラクト(A4で3,4枚程度)を10部、
1月8日(水)までにプログラム委員長宛にご送付ください。
(やむをえず、期限にまにあわない場合はプログラム委員長までご相談ください)
- (2) 採用通知は1月24日(金)の予定です。
- (3) 論文発表者は、論文コピー50部を当日ご持参ください。

参加申込み方法

- (1) ポジションペーパー(A4で1枚以内)を10部、1月20日(月)までにプログラム委員長宛送付
- (2) 参加者が50名を越える場合は調整させていただきます(通知は1月24日)。
- (3) 参加者は、ポジションペーパー50部を当日ご持参ください。

参加費

- ・学生: 会員 15,000円 非会員 25,000円
 - ・大学/国立研究機関: 会員 25,000円 非会員 40,000円
 - ・一般: 会員 30,000円 非会員 45,000円。
- 注) 会員はJSSST, IPSJ, SEAの会員です。

報告集

ワークショップの結果をふまえた報告集を後日発行いたします。参加者の方には報告集が完成しだい送付させていただきます。

問い合わせ

プログラム委員会、実行委員会(問い合わせは委員長までお願いします)

委員長: 落水 浩一郎 静岡大学工学部情報知識工学科、〒432 浜松市城北3-5-1、
Tel. 053 (471) 1171 内線507、FAX 053 (475) 4595、
e-mail ochimizu@cs.shizuoka.ac.jp

プログラム委員: 鯉坂 恒夫(京大)、井上 克郎(阪大)、片山 卓也(北陸先端科学技術大学院大学)、
岸田 孝一(SRA)、佐伯 元司(東工大)、園部 正幸(富士通研究所)、玉井 哲雄(筑波大)、
中島 毅(三菱電機)、二木 厚吉(電子技術総合研究所)、実行委員: 鎌田 孝(日本タイムシェア)

支部だより

中部支部 「マルチメディア／ハイパーメディアの現状と動向」専門講習会

日時 平成4年1月23日(木), 24日(金)

会場 愛知県産業貿易館西館第3会議室(23日), 第1会議室(24日)(名古屋市中区丸の内3-1-6)
地下鉄桜通線, 鶴舞線「丸の内」下車徒歩10分または名城線「市役所」下車徒歩10分

定員 100名(先着順)

参加費(テキスト代を含む) 会員(正会員, 賛助会員)10,000円, 会員(学生)5,000円, 非会員15,000円

申込方法 ハガキに①氏名, ②勤務先と所属, ③住所と電話番号, ④所属学会名を記入しお申込みのうえ, 下記いずれかの方法で送金してください。入金確認次第, 参加証をお送りします。

なお, テキストは当日会場でお渡しします。テキストのみの申込はいたしません。

(送金方法) 1. 銀行振込(申込のハガキに「銀行振込」と必ず明記してください)

銀行: 太陽神戸三井銀行 名古屋支店 口座番号: (普) 5589017

名義: 情報処理学会中部支部 支部長 杉江 昇

2. 現金書留(上記申込内容を適当な用紙に記入し, 同封してください)

申込先 460 名古屋市中区錦2-17-21 NTT DATA 東銀ビル NTT データ通信(株)

東海支社内情報処理学会中部支部事務局 Tel. 052 (204) 4517 FAX 052 (204) 4521

プログラム

1月23日(木) 総論

アクティブドキュメントマルチメディア

ハイパーメディアの目指す環境

椎野 努(三重大)

大野 邦夫(NTT)

飯間 豊(沖電気)

1月24日(金) マルチメディア／ハイパーメディアオーサリングシステム

分散・複合データのためのデータベース技術

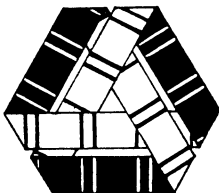
マルチメディア／ハイパーメディア符号化の国際標準化動向

松本 均(富士通研)

宇田川佳久(三菱電機)

尾上 秀雄(日本ビクター)

会議案内



各会議末のコードは, 整理番号です(*: 本年既掲載分, **: 昨年既掲載分)。会議の詳細を知りたい方は, 学会事務局へ切手72円を同封のうえ, 請求ください。(国内連絡先が記載されている場合は除く。)

1. 開催日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

国際会議

Euro ASIC 92

(089)

1. June 2-4, 1992
2. Paris, France

3. SEPIC 17, rue d'Uzès 75002 PARIS

Phone. 33 (1) 40 39 16 52, FAX. 33 (1) 42 36 20 60, Telex. 217 477

INET '92—第1回 インターネット国際会議 (090)

1. 1992年6月16日(火)~18日(木)

2. 神戸国際会議場

3. 主催: Internet Society

問合せ先: 慶応大学環境情報学部 INET '92 事務局
Tel. 0466 (48) 9433, FAX 0466 (49) 1101

4. 論文締切: 1992年1月6日(月)

CEMIT 92/CECOIA 3—「経済・経営と情報技術」国際会議 92 (*037)

1. 1992年8月31日~9月4日

2. 京王プラザホテル(東京・新宿)

3. 主催: 日本経営情報学会

問合せ先: (株) インターグループ内 CEMIT 92/CECOIA 3 事務局

Tel. 03 (3479) 8391, FAX 03 (3479) 2475

4. プラストラクト締切: 1992年1月15日

MEDINFO '92—7th World Congress on Medical Informatics (091)

1. September 6-10, 1992

2. Geneva Palexpo, Switzerland

3. SYMPORGA Symposium and conference organisers

108, route de Frontenex CH-1208 Geneva, Switzerland
Tel. +41 22/786. 37. 44, Fax: +41 22/786. 40. 80,
Email. Medinfo92@cih. hcuge. ch

The 5th National Congress on Industrial Automation (*083)

1. September 21-25, 1992
2. São Paulo, Brazil
3. SUCE SU SÃO PAULO RUA TABAPUA, 627-1º. ANDAR CEP 04533-SAO PAULO-BRAZIL
4. Deadline for submission of abstracts: March 31, 1992

APCCAS '92—IEEE Asia-Pacific Conference on Circuits and Systems 1992—VLSI Circuits and Systems— (092)

1. 1992年12月8日(火)～11日(金)
2. オーストラリア, シドニー, ハイヤットキングズゲートホテル
3. 東京工業大学工学部電気電子工学科 園枝 博昭
Tel. 03 (3726) 1111 内線 2574, FAX 03 (3729) 1399
4. 論文締切: 1992年5月4日(月)

3rd World Congress on Computational Mechanics—第3回 計算力学世界会議 (093)

1. 1994年8月(5日間)
2. 幕張メッセ(千葉市中瀬)
3. 国際計算力学協会 日本支部 川井 忠彦
Tel. 03 (3235) 5630

国内会議

講習会「ファジィの基礎から実用化技術まで」

1. 1992年1月16日(木)～17日(金)
2. 愛知県厚生年金会館
3. 日本ファジィ学会事務局
Tel. 045 (212) 8253, FAX 045 (212) 8256

IPAL シンポジウム

1. 1992年1月20日(月)
2. 虎ノ門パストラル(東京都港区虎ノ門)
3. 情報処理振興事業協会 技術センター
Tel. 03 (3437) 2301, FAX 03 (3437) 5386
4. 参加費: 無料

第15回 Japan SIGAda

1. 1992年1月22日(水)
2. 幕張テクノガーデン 西中央館(CB棟)(千葉市中瀬)
3. Japan SIGAda 運営委員会 田中 清
Tel. 03 (3740) 5719

SICE 基礎講習会—ディジタル信号処理—

1. 1992年1月24日(金)
2. 家の光会館(新宿区市谷船河原町)
3. (社)計測自動制御学会 Tel. 03 (3814) 4121
4. 参加費: 会員 10,000円, 学生会員 5,000円, 非会員 15,000円

第182回 講習会「次世代 FA ソフトウェア開発の方向性と標準化の動向」

1. 平成4年2月7日(金)
2. 中央大学駿河台記念館(千代田区神田駿河台)
3. (社)精密工学会

Tel. 03 (3362) 1979, FAX 03 (3367) 0994

4. 申込締切: 平成4年1月31日(金)

第7回 OA 全国総合大会

1. 平成4年2月13日(木)～14日(金)
2. パシフィック横浜
3. (社)日本オフィスオートメーション協会
Tel. 03 (3434) 6677, FAX 03 (3459) 1704

PS JAPAN 92—'92 スイッチング電源システム展・シンポジウム

1. 1992年2月25日(火)～28日(金)
2. サンシャインシティコンベンションセンター TOKYO(東京・池袋)
3. (社)日本能率協会 コンベンション振興本部内 スイッチング電源システム展事務局 Tel. 03 (3434) 1377

ボード・コンピュータ '92

1. 1992年2月26日(水)～28日(金)
2. サンシャインシティコンベンションセンター TOKYO(東京・池袋)
3. (社)日本能率協会 コンベンション振興本部内 ボード・コンピュータ事務局 Tel. 03 (3434) 1377

平成3年度 OR セミナー「ファジィ多目的計画法の基礎と応用」

1. 平成4年3月4日(水)
2. 東京ガス本社(港区海岸)
3. (社)日本オペレーションズ・リサーチ学会
Tel. 03 (3815) 3351

「MT ワールド '92」

1. 平成4年3月18日(水)～19日(木)
2. (財)機械産業記念事業財団 テピア会館(東京都港区北青山)
3. 日本機械翻訳協会 Tel. 03 (3479) 4396, FAX 03 (3479) 4895

第9回 光波センシング技術研究会

1. 1992年5月21日～22日
2. 幕張メッセ(千葉市)
3. 光波センシング技術研究会事務局
Tel. 03 (3433) 2543
4. 論文応募締切: 1992年2月10日(月)

SYNAPSE '92—ニューラルネットワークシンポジウム

1. 平成4年6月24日(水)～26日(金)
2. 千里阪急ホテル(大阪府豊中市)
3. (財)千里国際情報事業財団 SYNAPSE '92 事務局
Tel. 06 (373) 5319, FAX 06 (313) 0357
4. 参加料: 会員 45,000円, 学生 5,000円

平成4年度工学・工業教育研究講演会

1. 平成4年7月22日(水)～24日(金)
2. 電気通信大学(東京都調布市調布ヶ丘)
3. (社)日本工業教育協会
Tel. 03 (3832) 9040, FAX 03 (3832) 9049
4. 講演申込締切: 平成4年3月14日(土)

第6回 日本 ME 学会秋季大会

1. 平成4年10月16日(金)～17日(土)
2. 九州工業大学工学部
3. 九州工業大学工学部電子工学教室 第6回日本 ME 学会秋季大会事務局総務委員長 上松 弘明
Tel. 093 (871) 1931(内 414), FAX 093 (884) 0879

教官募集



○大学等情報関係教官募集

島根大学理学部情報科学科

募集人員 助手1名
 所属講座 情報数学講座または情報処理学講座
 応募資格 修士の学位を有し(取得見込みも含む)年齢30歳以下が望ましい。
 提出書類 履歴書, 研究業績目録, 主要論文の別刷もしくはコピー(10編以内), これまでの研究経過と今後の研究計画及び教育への抱負(2000字以内), 自薦の場合は本人について所見を求め得る方2名以上の氏名, 所属, 職名, 連絡先, 他薦の場合は推薦書。
 応募締切 平成4年1月14日(火)
 送付先 690 松江市西川津町1060
 問合せ先 島根大学理学部情報科学科 榎野 尚
 Tel. 0852 (21) 7100 (内 584)

理化学研究所職員

募集人員 職員(技師又は技師補)1名
 所属部門 電子計算機室
 専門分野 計算機科学, 情報科学, 研究支援, 研究開発
 待遇 当所給与規程による
 応募資格 大学又は短大卒(含む卒見込み), 年齢32歳以下, 新しい仕事を開拓する意欲のある者には経験を特に問わない。
 着任時期 平成4年4月
 提出書類 履歴書, 論文リスト(除新卒)
 応募締切 平成4年1月15日
 問合せ先 351-01 埼玉県和光市広沢 2-1
 理化学研究所電子計算機室 相馬 嵩
 Tel. 0484 (62) 1111 (内 3181)

名古屋文理短期大学情報処理学科

募集人員 助手または講師1名
 専門分野 情報処理関連分野
 担当科目 プログラム演習または情報処理関連科目
 応募資格 大学院修士課程修了または同等以上の教育, 研究歴のある者。
 提出書類 履歴書, 研究業績および社会における活動等のリスト, 研究論文別刷等。
 応募締切 平成4年1月17日
 送付先 492 愛知県稲沢市稲沢町前田 365
 名古屋文理短期大学総務課長
 Tel. 0587 (23) 2400

東海産業短期大学経営情報科

所在地 愛知県岡崎市岡町原山 12-5
 専門分野 短大情報処理教育担当(COBOL)(四大産業デザイン科<平成4年新設>CG)
 募集人員 教授・助教授・講師各1名

愛知技術短期大学情報技術科

所在地 愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2
 専門分野 情報処理教育担当(FORTRAN)
 募集人員 助教授・講師・助手各1名
 応募資格 (以上いずれの場合も)65歳未満で, 修士修了, 又は同程度の教歴・研究歴のある者。
 採用時期 平成4年4月1日
 提出書類 履歴書, 業績リスト
 応募締切 平成4年1月20日
 送付先 456 名古屋市熱田区神宮 4-7-21
 問合せ先 学校法人電波学園人事部 熊崎・田中
 Tel. 052 (681) 2299 FAX 052 (682) 3017

福岡工業大学電気工学科

募集人員 教授1名
 所属 電気工学科
 担当科目 機器制御工学(電気計測, 制御工学, 電気応用, 計算機工学)
 専門分野 電気・電子に関連した工学分野
 応募資格 電気・電子・情報などの工学分野において業績があり学位を有する者。60歳以上の者, 大学院(修士課程・計画中)の研究指導可能な者。
 着任時期 平成5年4月1日
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト及び主要論文の別刷。
 応募締切 平成4年2月29日
 送付先 福岡工業大学教務課長 石田隆男
 811-02 福岡市東区和白東3丁目30番1号
 Tel. 092 (606) 3131 (内 2242)
 FAX 092 (606) 8923
 問合せ先 福岡工業大学電気工学科 教室主任 鶴見一郎(内 2424)

雑報



○財団法人神奈川科学技術アカデミー平成4年度 研究助成募集案内

助成対象 主として神奈川県在住, 在勤(近県を含む)の若手研究者(概ね40歳以下)による先端的科学技術分野(自然科学系)の創造的基礎研究。
助成方法及び金額 三階段の段階助成方式(各50万円, 250万円, 500万円程度)を採用。ただし第二, 第三段階は前段階終了者のみ。平成4年度は第一段階約50万円, 40件程度を公募。
応募締切 平成4年2月末日
問合せ先 213 川崎市高津区坂戸 100-1 KSP 西棟6階
申請用紙請求先 (財)神奈川科学技術アカデミー交流普及科
 Tel. 044 (819) 2032 姫野